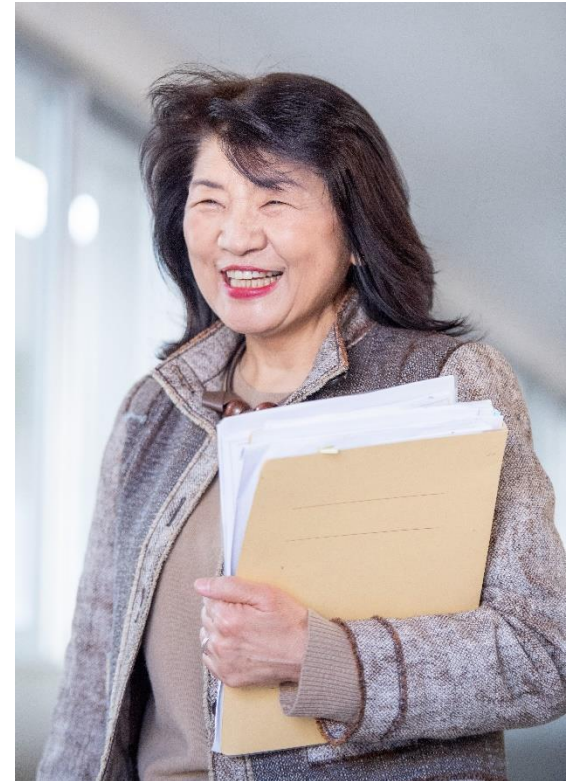


Profile

こども学専攻教授。1973年沼田市立幼稚園教諭。1995年～2012年沼田市立幼稚園園長を経験。2013年4月より現職。40年以上保育の現場や保者養成に従事。群馬県総合教育センター及び群馬県幼児教育センター各種研修会講師。群馬県私立幼稚園・認定こども園協会各種研修会講師。群馬県及び群馬県保育協議会保育研究大会指導助言。群馬県教育委員会県民カレッジ等講師。前橋市幼児教育センター研修会講師。公立幼稚園PTA講演会講師。各地公民館家庭教育学級など講師。公立幼稚園園内研修指導助言。群馬大学共同教育学部附属幼稚園公開研究会指導助言を務める。

- ・公益社団法人 全国幼児教育研究協会群馬支部 理事
- ・前橋市幼児教育センター保育アドバイザー
- ・群馬県子ども子育て会議副委員長
- ・群馬県子ども子育て会議調査委員会副会長



学生へメッセージ

5歳児のC児とD児は、園庭で組み木を積み重ね家を作って遊んだ後、組み木を片付けながら、瞳を輝かせ「明日も続きやろうぜ」「うん、もっと暗くしてな」「うん、考えてな」と伝え合いました。C児は5本の組み木を一緒に持つと「見て、見て、すげーだろう」とD児が気付くまで声をかけ、覗き込み自分の思いを伝えます。D児はその様子に気付くと「すげー」と一言返しました。満足顔のC児でした。

「明日も続きやろうぜ」「うん、もっと暗くしてな」「うん、考えてな」の言葉の中に、自分たちで環境を整え、思いの実現に向けて創意工夫しながら遊んだ喜びと楽しさを感じとることができます。そこには、幼児の思いが実現できる意図的・計画的な環境の構成や遊びの見通しをもった保育者の存在が見えてきます。

「見て、見て、すげーだろう」「すげー」の会話からは、幼児が成長していく上で、自分の思いを伝えたい友達がいることの大切さ、素晴らしさ、そして、幼児期に自分の思いが伝わる体験と分かってもらった体験を、たくさん積み重ねていくことの重要性を確認することができます。

このように幼児は様々な物や人や自然などの環境の中で生活し、その環境に主体的にかかわりながら遊びを見つけ思いを巡らし、気の合う友達に出会い、思いっきり遊びながら自分の世界を広げていきます。一緒に子どもの世界を覗いてみませんか。そして、子どもの気持ちに寄り添える保育者を目指し、一緒に学びましょう。